

佐保ひろば

佐保地域広報紙

第17号

2021年12月30日発行

佐保地域自治協議会

佐保地区自治連合会

<http://www.saho-jichikyo.org>

事業計画に着手へ

佐保地域自治協議会部会が確認

佐保地域自治協議会は11月6日に佐保地域ふれあい会館で開かれた事務局と5部会長の連絡調整会議で今後の活動に関する意見交換を行い、今年度中に第一歩の活動に着手することを確認しました。また10月に開催された「奈良市活性化セミナー」の概要も報告されました。5部会の事業計画について、生活環境部会から年内に事業計画「地域美化活動」の具体化へ検討を始めることが報告され、町づくり部会の報告では、鴻池放水路の雑草・土砂の排除等の工事が実施済みで、佐保川放水路の環境整備も市に対応の要請を予定されています。文化教育部会は、佐保小を核とした各種展示会を企画、関係者と交渉しています。安心安全部会、健康福祉部会はコロナ感染禍により活動見合わせとなっていますが、

地域の子どもや高齢者の見守り活動は地域の諸団体との協働に取り組むことで一致しました。

地域活動のポイント

「地域を知る」「できることから動く」「持続させる」

5部会の事業計画報告に先立って行われた事務局の「奈良市活性化セミナー」報告では、地域の自主的な事業展開、地域課題解決への参考視点が説明された。まず活動の取り組みとして、第一に地域デザイン策定への喚起・共有、第二に活動にふさわしい組織・運営を考える、第三に「何を」「いつまで」「どのように」行うかを考えることが示された。住民アンケートなどで「地域を知る」、できる改善から「動いてみる」、連携して総力で「持続させる」ことが大切であると強調された。

令和3年度5部会事業計画

<生活環境部会>

- 地域での「美化の日」を選定、地域交流美化活動推進

<町づくり部会>

- 災害の無い町づくり推進
(鴻池放水路の草木伐採・体積土砂浚渫を実施済)
- 住民間の連携啓発活動推進
(挨拶高揚・啓発紙作成)

<文化教育部会>

- 佐保小を中心に絵画、書道、音楽等の展示・発表会
- ふれあい会館活用策、子供食堂など複数部会と取り組む

<安心安全部会>

- 地域での見守り活動の充実

<健康福祉部会>

- 高齢者の現状把握と対応
(一人住まい高齢者へ配慮)

<部会協働活動>

- ふれあいある町づくり
- ふれあい会館活用による地域提案事業の推進
- 地域の空き地と空き家増加に対する現状調査
- 防災避難関連マニュアルの確立と啓発活動の展開

「電話口でお金 の話しは詐欺」

自治会長防災研修会

佐保地区自主防災防犯協議会(豊田基城会長)は防犯研修会と避難行動要支援者名簿の配布を11月7日から12月5日まで全自治会長を4回に分け、毎日曜日に開催しました。

防犯研修会は、多発する電話やスマホによる特殊詐欺の被害防止について、警察出身の奈良市危機管理課の今谷氏がスクリーンに注意ポイントを表示

自治会長が出席して開かれた 特殊詐欺被害防止の研修会



し、参加者に問を投げかけながら説明しました。

奈良県では令和3年10月現在で81件発生、3億130万

円の被害が出ています。「孤独」「無関心」「無防備」の高齢者が狙われやすく、電話口で「あなたの口座から不正に使用されている。他に被害がないか確認するのでカードを預かる」と言ってカードを取るケースや警察官や役所職員を名乗って現金をだまし取ったりするケースが増えていることを紹介。詐欺グループは言葉巧みな話し方で近づいてくるので、防ぐには『電話口でお金・カードの話は詐欺』と、思ってすぐに電話を切ることが大事と強調、出席者一同でこの言葉を復唱しました。

町並み保存と活性化探る

全国ゼミ奈良大会から

町家や空き家を アート会場活用

町家の町並みの保存と活用をテーマに第44回全国町並みゼミ奈良大会が11月13日に全国町並み保存連盟と奈良市の共催で県文化会館で開かれました。

まちづくりシンポジウムでは、西村幸夫東大名誉教授が「町の資産の活かし方としては、保存から活用への視点が必要」と述べ、増井正哉奈良女子大名誉教授は「奈良町には多様な街並み、価値観が関わり、様々なグループが活動するようになった」と語り、町家を舞台に灯りの

保存と活用を語るシンポジウム



イベントやアート展示などの活用事例が紹介されました。

5つの分科会報告(保存制度、建築物、生活文化、活動の持続、担い手)では、「新旧のバランスが大事」、「京町家ではVR化で小学生を招いている」、「モデルハウスで一泊体験」、「若い世代が魅力的と思う地域に」、「地域外の人の流入も恐れるな」など数々のヒントが示されました。

分科会テーマ

■第1分科会(保存の制度)

歴史的景観の何を次世代に継承するのか。次世代の育成が必要。

■第2分科会(暮らしと建物)

暮らしの変化が生じている町家の継承が直面している課題と取り組みの方向性。

■第3分科会(生活文化)

町家の生活文化の継承には実体験が大事。VRによる疑似体験など若い世代の感覚に寄り添うことが求められる。

■第4分科会(活動の持続)

町並みにおける「営みを継ぐ」。生まれた利益をまちへ再投資する循環をつくる。

■第5分科会(担い手)

担い手の育成。若い人に関わりを持ってもらうヒント、仕掛けが必要。

ふれあい会館に Wi-Fi機器完備 災害時の通信拠点

佐保地域ふれあい会館の通信環境整備のため、Wi-FiルーターとACアダプター(メーカーからのリース製品)が1セット奈良市から追加貸与され、12月16日に関係者に取り扱いの説明が行われました。この機器は南館に設置、新館には設置済みで、全館がWi-Fi通信可能となりました。

災害時には地域防災関係者と奈良市職員等が業務上必要とする場合、他より優先して使用されることになっています。この機器は持ち出し禁止です。

佐保地域では、佐保小学校校庭に防災スピーカーも設置されており、災害時の対応が一段と整備されてきました。

この機器設置により会館内での団体・グループのインターネット利用も可能になりました。

なお、当館では営利目的の部屋利用はできません。

佐保地区自治活動抄録

▽10月/2日=佐保小学校運動場の草刈り(3日目)▽12日=佐保地区事務局会議▽22日=佐保事務局打合せ▽25日=佐保ふれあい会館掃除▽27日=自治連合会役員会▽28日=ふれあい会館運営委員会(朝市打ち合わせ)▽11月/6日=佐保地域自治協議会理事・事務局会議▽7日・14日・21日・28日=佐保自主防災防犯協議会防犯研修会▽8日=佐保ふれあい会館植木を自治協議会役員で剪定▽10日=佐保事務局会議▽16日=佐保ふれあい会館Wi-Fi設備説明会▽20日=佐保地区自治連合会役員会・役員歓送迎会▽28日=第3回佐保ふれあい朝市開催(27日にテント準備)▽12月/▽5日=佐保自主防災防犯協議会防犯研修会(最終回)▽16日=佐保ふれあい会館運営委員会。Wi-Fi機器設置説明会▽19日=佐保地区冬季防犯統一行動で地区内巡回

「佐保ひろば」編集スタッフ募集

取材・紙面レイアウト・イラスト 3~5名

佐保地域自治協議会と佐保地区自治連合会が年間4回発行する地域広報紙「佐保ひろば」の編集スタッフを来春募集します。「佐保ひろば」は2014年12月に創刊し7年余、地区の自治組織の動きや地域の問題を取り上げ、佐保の町づくりに努めています。

新たなステップをめざしてスタッフを一般公募し取材・編集の刷新を図りたいと思います。通年もしくは期間限定で有償の活動です。希望の方は下記にご連絡ください。

編集担当・高松 電話0742-22-7893

佐保まち探 5

佐保田の狭岡神社横の「心臓破り」と言われた坂道を登っていくと奈良教育大学附属中学校がある。現奈良女子大学寮から移転してきた昭和33年頃は、あたり一面が田園地帯。それが大住宅地に生まれ変わった。

業平の寺
不退寺



業平の面影求めて

ここから西方の杜に平安初期の美男貴公子・在原業平の寺として知られる不退寺が佇んでいる。平城天皇退位後の別荘「萱の御所」と呼ばれ、今日では「花の寺」とも言われている。女性客が時折訪れる人気スポットで、庭の片隅には。業平が晩年に詠んだ「おほかたは つきをもめでじこれぞこの つもれば人のおいとなるもの」の歌碑がひっそり立っている。

佐保小学校の南側にある佐保地域ふれあい会館は、佐保地域自治協議会が自主管理運営、現在約60の団体・グループが利用している。

長寿体操、合唱、絵画…

その中には、元気な80代女性7人が毎週集まり、体操とおしゃべりで長寿を楽しんでいる「エクササイズ立花」がある。奈良市が勧める活動で、若草包括支援センターからDVDを貸与されている。

毎週金曜日には女性コーラスグループ「コール・セレーネ」のさわやかな歌声が流れます。

第8ブロック 812世帯
法蓮立花町 法蓮西町第一
法蓮西町第二 法蓮西町第四
法蓮山添東町 法蓮山添中町
法蓮山添西町 法蓮佐保町

2年前の結成20周年では奈良ファミリー内の秋篠音楽堂で発表会を開催。クラシックからシャンソン、抒情歌、歌謡曲までジャンルも幅広く、ピアノと歌唱指導の先生とともに練習を重ねている。



▲長寿で明るく「エクササイズ立花」

歌声さわやかに
▼「コール・セレーネ」



趣味、ロマン
熱く、楽しく



▲大仏鉄道研究会の例会

楽しんで絵を描く絵画のグループ「色季会」は年4回ほど数名が集まり作品を比べる研究会を行っている。時には100号の大作が壁いっぱいに掲示されるという。

「幻の鉄道」夢遙か

明治31年から9年間、奈良と加茂の間を走った幻の鉄道「大仏鉄道」(正式名は関西鉄道奈良加茂線)の歴史とロマンを追う大仏鉄道研究会(高橋正男

法蓮佐佐保町一区
第9ブロック 429世帯
法蓮佐保田町南
法蓮佐保田町東 法蓮奈良山町
法蓮佐保田町北 東垣内町

会長)も毎月例会を開き、熱い思いを語り合っている。来春には結成20周年を迎え、記念事業の集いや遺構巡り、記念キーホルダー発行などを予定している。



中庭に立つプラトンとアリストテレスの銅像はどうなるか

▲奈良高校の玄関

新天地でも校歌不変

昭和初年から法蓮に学舎を構えている県立奈良高校が来春、高の原の平城高校の跡に移転する。地域からは「町の核がなくなる」「大きな空地ができて防犯上も心配」との声もある。跡地の用途は未定。

校歌に「青丹よし奈良の春日山まじかく 佐保路にそひて…」という一節があるが、「これは変えずに、法蓮の思いをしっかりと残していきたい」と藤井義秀教頭。数々の記念碑も、高の原に移すもの、現在地に残すのもあり、また昭和40年代まで学んだ現ホテル・リガール春日野の地にも「ここに奈高があった」という標を残したいという。スクールストリート的一条通りもこれから変わっていくのだろう。佐保に住む人の思いを新たに創っていく時が来ているようだ。(おわり)

地域の命の絆として

1859年、スイス人のアンリ・デュナンの悲惨な戦争体験により「傷ついた兵士はもはや兵士ではなく、人間であり、敵味方なく人間同士として尊い命を救わなければならない」という精神がヨーロッパに広がり「赤十字」が誕生し、明治28年に奈良支部が誕生しました。日赤佐保分団もこの精神に基づいて活動しています。

様々なボランティア活動をしています。主だっては献血の呼びかけ、赤い羽根募金や災害時の救護活動として炊き出し、



救援物資の配布や義援金の受付、AEDの使い方の講習、佐保川清掃や佐保まつりでの救護班としても参加し、避難所開設と運営、近年重視されている避難所生活を送る際の心と身体のケアについても講習会を開き普及に努めています。

ここ2年はコロナ禍のため活動を自粛しておりますが、本来ならばこの時期こそ必要であると考え、新たな課題としております。「手作りマスク」もそうですが、佐保分団ではマスクを一時的に外した時のための「マスクケース」を作成し、「さほちどり」のボランティアの方々と民生委員の方々のご協力ボランティアグループ「さほのわ」に集まってくださっている高齢者の方々にお配りしました。

この様に地域に密着した活動をしております。これからもご支援、ご協力、各行事への参加をお願い申し上げます。



今年も学年別に 体育参観を実施

佐保小学校

佐保小学校(楨康二校長)は新型コロナウイルス流行2年目も全体運動会を取りやめ、学年別の体育参観となりました。



11月1日の2年生、4年生から始まり、8日には1年生と3年生、16日は5年生が綱引き、玉入れ、体操などを保護者が見守る中で行いました。(写真上、下)18日に6年生が体育館で学級ごとに走り高跳びなどをして締めくくりました。

買い物 歓談 にぎやかに

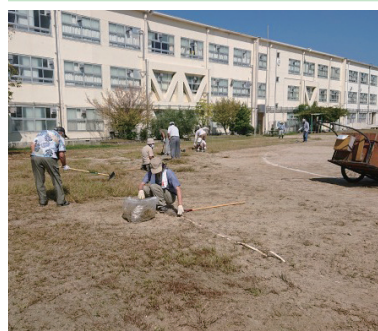
佐保ふれあい朝市

第3回佐保ふれあい朝市(佐保地域自治協議会主催)が11月28日(日曜)、暖かい陽光の下で開かれました。会場の佐保地域ふれあい会館広場には前回より1割増の近隣住民116名が来場、自治協議会、北部婦人会の約30名が対応、4つのテントで買い物を楽しみました。新鮮な野菜が山積みされたテントには行列ができ、焼きいもサービスやホット・コーヒー販売もあり休憩テントでは歓談が弾みました。(写真上、下)

コロナ感染が収まってきましたが、入り口では検温、消毒も行いました。



新鮮野菜に長い列



佐保自治連合会が 佐保小学校庭草刈り

佐保地区自治連合会(中島佳彦会長)は昨年につき佐保小学校校庭の雑草刈りを9月28日、30日、10月2日に実施しました。地域支援活動の一つとして中島会長ら役員10名が道具を持ち寄り雑草が一面に広がった校庭で作業をしました。